



所内 第6回 写真コンクール 入選作 「水の祭典」 地質部 木野義人

水の祭典

製鉄所で鉄1tをつくるには 数100tの水が必要とされている もちろん 量的にその大部分は海水でまかなわれているが 同じく製品1t当り数10tの淡水はどうしても必要である

この製鉄所では淡水を1日に6万t以上使用しているが 現在 淡水の主水源をもっぱら地下水に依存している しかし 臨海工業地帯の常として 地下水の大量揚水には種々の制約をまねがれない

この製鉄所では地下水の保全に大きな関心を払っており 自主調整によって10数本の井戸から1日当りの全揚水量を2万t余りにおさえている これは淡水使用量の約3分の1に過ぎない したがって 残り約3分の2は再生 すなわち 一度使った水の循環使用によるほかなく

そのために とくに設備されたものの1つが写真の還元用沈殿池である ここでは 灼熱の鉄塊を冷却して数10度の高温となった水(むしろ湯となっている)が外気によって温度を下げられ 同時に鉄などの不純物が除去され しかるのち新たに増援された井戸水とともに再び多くの工程で使用されているのである 水が原材料と同様に貴重な存在として認識され 設備投資の重要な対象となりつつある好例であろう

水の還元利用の方法としては 沈殿池のほか冷却塔を経るもの 地下還元によるものなどがあるが 何れにしても 自然の法則にしたがって長い年月を費して大地と空との間を循環していた水は 今や近代文明のテンポを反映するかのよう 人々の手によって急速な還流を行いはじめているのである

スプリングラーからいっせいに放出される水は その瞬間自分たちのいきかいを喜び合うかのように乱舞する それは水の祭典であり 同時にまた近代産業躍進へのファンファーレでもあるろう

1月月例研究発表会

1月16日(月)午前10時から河田町会議室で行われた

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 演 題 | |
| (1) ウラン鉱床成因上の2,3の問題 | (鉱 床 部) 小関 幸治 |
| (2) 田沢湖付近のウランについて | (燃 料 部) 島田 忠夫 |
| (3) 小国一金丸地区の地質とウラン鉱床 | (燃 料 部) 徳永 重元 (鉱 床 部) 浜地 忠男 |
| (4) 三川-赤谷地区のウランについて | (燃 料 部) 青柳 信義 |
| (5) 人形時の物理探査について | (物 探 部) 陶山 淳治 |
| 第21回万国地質学会報告 | (地 質 部 長) 斎藤 正次 |



蔵田工業用水課長

蔵田工業用水課長 コロンボへ出張

地質部工業用水課長 蔵田延男技官は セイロンのコロンボ市で開かれた 第4回 ECAFE 水資源開発技術地域会議に日本代表団の一員として 去る12月3日から20日まで出張した

お知らせ

昨年12月名古屋駐在員事務所は 下記へ移転しました

名古屋市中区南外堀町6の1

地質調査所 名古屋駐在員事務所 Tel(4)6416

